

巴川流域のまちづくり

この地区で目指す姿

水害への備えを地域全体で進め、安心して暮らし続けられるまち

実現に向けた主な取組

1. 雨水貯留施設整備

- 雨水貯留施設を整備し、大雨による浸水被害を軽減します。

2. 巴川道路橋撤去・架替(流域治水推進)

- 巴川の道路橋を撤去・架替し、河川の流れを改善して浸水被害を軽減します。※静岡県との連携事業

3. 巴川浸水情報システムによるリスク情報の提供

- 巴川流域で6時間先までの浸水状況を予測・公表することで、早めの避難行動を促します。

こんなことが実現されます

- 大雨や集中豪雨が発生しても、雨水を一時的に貯めたり川の流れを改善したりすることで、浸水被害が軽減され、雨天時の不安が解消される。
- 道路橋を撤去・架替することで、川の流れがスムーズになり、水害のリスクを減らすとともに、災害時にも移動できる道路網が整う。
- 浸水状況や災害リスクをリアルタイムで確認できるようになり、早めの避難行動や適切な災害への備えにつなげられる。



雨水貯留施設整備推進

取組概要

雨水貯留施設を整備することにより、豪雨時の浸水被害を軽減し、災害に強く安全・安心に暮らせるようになる。

- 近年、線状降水帯や短時間豪雨が増加し、特に2022年台風第15号では市内約4,800件の浸水被害が発生し、浸水リスクが高まっています。
- 大内新田雨水貯留施設をはじめ、学校や公園などの公共施設で雨水を一時的に貯める雨水貯留施設を整備します。また、既存の雨水貯留施設の貯留量を増やすために、施設の改良を行います。
- 大雨のときに雨水が一気に川や水路へ流れ込むのを防ぎ、浸水被害を軽減することができ、安心して暮らせるまちづくりにつながります。



平常時の様子



雨水貯留時の様子

今後の予定

	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
大内新田	工事			供用開始						
市内公共施設	工事(井宮北小)	供用開始		設計・工事(市内公共施設)						
		工事(長崎新田)	供用開始							
		工事(賤機南小)		供用開始						

巴川道路橋撤去・架替(流域治水推進)

取組概要

巴川に架かる市管理道路橋を撤去又は架替することで河川の流下能力が向上し、
浸水被害軽減につながることで、安全・安心に暮らせるようになる。

- 令和4年9月洪水(台風15号)により甚大な浸水被害が発生し、流域治水対策が必要です。
- 県の流域治水対策(河道掘削など)に合わせて、複数の橋脚や低い橋桁により川の流れを阻害する割合が高い道路橋の撤去・架替を行います。
- 流域治水効果が得られ浸水被害が軽減されると同時に、道路橋が新しくなることで災害に強い道路ネットワークを構築することができます。



今後の予定

	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
千歳橋	※静岡県により事業調整中									
富士見橋	※静岡県により事業調整中									

② 防災・消防・防犯

目指すべき未来像

激甚化・頻発化する風水害や南海トラフ地震などへの備えが整い、安全・安心に暮らすことができるまち

現状と課題

- ・静岡市では、2022年台風第15号により、大規模な浸水や広範囲の断水が発生し、市民生活に大きな影響が生じました。2024年台風第10号では、局地的な大雨により観測史上最大となる72時間で516mmの雨量を記録するなど、近年、風水害は激甚化・頻発化しています。
- ・2025年9月に国が南海トラフの地震活動の長期評価を改訂し、その発生確率が依然として高いことが示されました。南海トラフ地震は「いつ起きてもおかしくない」状況にあり、発生した場合には市民生活に甚大な被害が生じることが想定されます。
- ・自然災害から市民の命と暮らしを守るため、事前(予防・減災)・事中(応急対応)・事後(復旧・復興)の各段階においてハード・ソフト両面の対策を着実に進める必要があります。
- ・日常を脅かす火災への対応、複雑化する消費者トラブルや増加する特殊詐欺などの未然防止も課題となっています。

巴川浸水情報システムによるリスク情報の提供

★取組概要

安全安心

巴川流域

浸水被害が頻発している巴川流域において、現時刻から6時間先までの浸水状況を予測することで、早めの避難行動を促し、迅速な災害対応につなげる。また、現時刻の浸水状況を市民に公表している。



巴川浸水情報システムの画像 (現時刻の浸水箇所を着色により表示)



木造住宅無料耐震診断の実施・木造住宅耐震補強事業補助金の交付

★取組概要

1981年5月末以前の旧耐震基準で建てられた木造住宅について、無料耐震診断や耐震補強工事への補助を行うことで、耐震化を進めることにより、大規模地震発災時の住宅の倒壊による被害を防止する。



地震により倒壊した住宅の様子
出典:(一財)消防防災科学センター

筋かいによる壁の補強例→

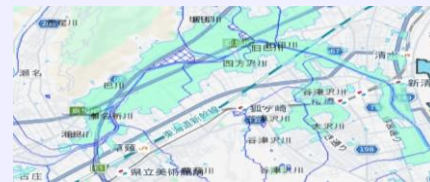


静岡市地理情報システム(しずマップ)による防災情報の提供

★取組概要

安全安心

事前に避難所の位置や災害リスクなどの防災情報(過去の台風の浸水実績図(下図)、ハザードマップの情報)を確認することで、市民自らが適切な避難行動をとれるよう、しずマップにより、防災情報を提供している。



令和4年台風15号の浸水実績図(参考)

課題解決のための
具体的な取組

